

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3092400047		
法人名	株式会社 アップワード		
事業所名	上富田グループホームさくら	【ユニット名: 1階】	
所在地	和歌山県西牟婁郡上富田町朝来2086番地の12		
自己評価作成日	平成28年8月8日	評価結果市町村受理日	平成28年9月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/30/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JigyosyoCd=3092400047-00&PrefCd=30&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成28年8月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・開設より3年が過ぎ、少しずつではありますが家族様参加の人数が増えています。ホームとしても、積極的に地域活動にも参加するように努めています。 ・入居者様おひとりおひとりに寄り添い、職員は認知症を理解し情報を共有して、入居者様・家族様の意向に添ったケアの実現を目指しています。 ・往診医、訪問看護師との連携により、24時間対応できる医療体制を整えています。 ・毎日戸外に出かけ、外の空気に触れたり季節感を楽しんでいただけるようにしています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者本位の快適な生活が提供できるよう、職員が一人ひとりの心に寄り添い支援している。畑を借りて、利用者職員が一緒になって芋の苗を植え付けるなどの取り組みがみられる。入浴の時間帯は家庭での生活にできるだけ合わせた午後から夕食までの時間帯で、だれもが毎日入浴を楽しめるよう配慮している。今年の夏祭りは開設3周年を記念してチラシを地域に配り、盛大なイベントとなった。多くの地域住民が夏祭りで事業所を訪れ、グループホームを知ってもらった。地域のイベント「かみとん市」にも毎回出かけて利用者の楽しみとなっている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「事業所理念」を玄関ホールの目につきやすい所に提示し、また全体会議において全員で唱和する事により、職員間にて共有・実践しています。	理念の実践に向けて、「個性の尊重し」「心に寄りそう」を常に意識して利用者と接するようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事(文化祭・町内会の溝掃除など)には積極的に参加するように心がけています。施設行事の時はボランティアさんも参加していただいています。	日頃から、地域での草刈りなど、近隣の住民の手助けができるよう取り組んでいる。夏祭りの開催に工夫を凝らし、地域の多くの人と一緒に楽しむことができた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談に来られた時や面会時に、認知症介護などでお悩みのご家族様の話をお聞きしたり、社会資源の活用方法などのアドバイスさせていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月の第4金曜日に運営推進会議を開催しており、状況報告を行なっています。出席していただいた方には地域のイベントの開催・外出に適した場所などの情報をいただき、ホームの年間行事の参考にさせていただいています。	外部からは、地域包括支援センターの職員、民生委員が出席している。内容は事業所からの報告を基に、自由に話し合っている。利用者も会議に参加して、自分の思いを話している。家族の参加は少ない。	テーマを決めたり、参加者への呼びかけ、開催日、運営につながる内容等の工夫でより多くの人からの意見を運営に生かしていけることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には、介護保険係・地域包括支援センターの代表の方、民生委員、医療関係者、ご家族、入居者様に出席いただいております。	地域ケア会議には毎月参加し、町の職員との関係を深めている。地域包括支援センターの職員とは、毎回運営推進会議に参加して話し合っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	リビング～玄関へのドアは、職員の見守りが行き届かない時間帯には施錠させていただいています。身体拘束委員会を設置し、月1回の全体会議において報告・連絡を行い、問題点や改善方法について話し合う機会を設けています。	身体拘束をしないケアに努めているが、2階の利用者がエレベーターで1階に移動すると、職員が目が行き届かないため、2階のユニットの出入り口には常時鍵をかけている。	鍵に頼らず見守りを工夫し、閉塞感や圧迫感を感じることなく、より自由に行動できる範囲が広がることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を設置し、月1回の全体会議において報告・連絡を行い、適切なケアが行われているかどうか話し合いの場を設けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修会に参加し、そこで学んだことを全体会議で伝え、実践しています。 入居者様が自らの能力に応じてできる限り自立した日常生活を送ることができるよう、支援させていただいています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書・重要事項説明書を丁寧に説明し、納得していただいた上で署名・押印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会を設置し、入居者様・ご家族様の意見をお聞きしています。 入居者様の訴えには傾聴し、ご家族様の面会時には日頃の様子をお伝えし意見をお聞きして、運営や支援方法に反映させるようにしています。	訪問が少ない家族も多く、家族との連絡は電話が中心となっている。家族が意見を言いやすくなるよう、日頃の様子を利用者の写真つきの手紙と利用者の自筆の言葉を添えて家族に送っている。	家族とのコミュニケーションを大切にしてい信頼関係を深め、意見や要望を聞く機会が多くなることを期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々職員に気配りや声掛けを行い、意見や相談事が言いやすい職場環境作りに努めています。 また、個別面談の機会を設けています。	月に1回の全体会議で職員が意見を出し、職員の案でバルーンアートや流しそうめん等のリクリエーションを行った。本部の意向は管理者が2か月に1度の施設会議で確認し、意見を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務状況を把握し、やりがいを持って働くことができ、ストレスをためないような職場環境作りに努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には積極的に参加するように努めています。職員の資格取得・スキルアップのためのバックアップを行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会が少ないため、勉強会や他事業所訪問など積極的に行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面接において、できるだけ詳しくご本人の心情や要望をお聞きするよう努めています。ご本人からお聞きできない場合にはご家族から情報を得、安心して暮らしていただけるよう支援させていただいています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前面接や契約時にできるだけ詳しくお話を伺いし、ご家族の要望に対して共に考えるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	複数のニーズの中から、ご本人・ご家族にとって何を優先するのかを考え、ケアプランに位置づけるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として、尊厳を持って接しています。いつも顔なじみの職員がいることで家族のような関係を築き、安心して過ごしていただけるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた際には日々の生活の様子を伝え、変わった事があれば必ず電話にて連絡・相談しています。1ヶ月に1回、生活の様子をご家族に郵送してお知らせし、また行事への参加の呼びかけも行っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの方が面会に来ていただきやすいような雰囲気作りに努めています。ご本人がご希望の際は、ご家族の協力を得て外出や外泊をされています。	友達や以前働いていた仕事の後輩が訪ねて来たり、行きつけの美容院に出かける利用者もいるが、地元の人に会いたくない利用者もいるので、本人の気持を考えながら支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活や会話の中で職員が橋渡しをし、入居者様同士が仲良く、孤立せずにいられますように配慮させていただいています。プライバシーを保ちつつも、リビングには自然に人が集まり、楽しく過ごせる場となっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方がいつまでもお元気でられますように、現入居先などに面会に行かせていただくことがあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限りご本人の希望や意向に添うように努めております。 ご本人の意思確認が困難な場合は、ご家族よりお聞きしています。	利用者の担当職員が中心となってコミュニケーションを密にとり、言葉になりにくいところも傾聴し、利用者の意向に沿った支援に努めている。小さなことでも、利用者が自分で決められる機会を作るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人・ご家族、これまで関わって来られたケアマネージャーやサービス事業所から情報収集を行い、聞き取りした事は「入居前情報」として全職員が把握するようにしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとりひとりの毎日の様子を詳細に介護記録に残し、変化があった場合はノートにも記録した上で、毎日の業務引継ぎ時に申し送りをして情報の共有をしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・ご家族・職員、それぞれの意見を聞き、3ヶ月に1回モニタリング・ケアプランの見直しをしています。また、毎日の支援がケアプランに沿ったものであるか、問題点はないか、毎日チェックしています。	家族とは電話やメールでやり取りし、サービス担当者会議で検討して介護計画を作成している。3か月ごとに新たな計画を作成しているが、検討内容と計画の変化のつながりが見えにくいところがある。	具体的な短期目標を設定し、実施状況や検討内容を次の計画に明確に繋げて、一人ひとりの生活の質をより高めていくことができることを期待する。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子を、いつ・誰が見てもわかるように詳細に記録し個別にファイルしており、職員はいつでもその記録を見ることができます。記録はケアプランの見直しやモニタリングの際にも役立てています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ひとりひとりのニーズの違い、また同じようなニーズであったもADLや環境その他の状況によって生じるサービス内容の違いを、その都度ご本人・ご家族・職員と共に、その人に合った支援方法を常に考えています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際、ボランティアさんに手伝って頂きました。町内のイベントの情報を役場からいただいて行事計画を作成し、外出はできる限り町内を利用するようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携医による月2回の往診の他、ご本人やご家族がなじみの主治医や専門医の受診を希望される場合は、通院の支援をさせていただいています。連携医とは常に連絡を取り、24時間体制しております。入居者様の定期的な健康診断もおこなっています。	協力医療機関による往診で利用者全員の健康管理が行われ、週1回看護師の訪問もある。眼科や精神科などの専門医への受診を、家族に代わって支援することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の訪問看護により、入居者様の健康管理をしています。職員への療養上のアドバイスや主治医との連携、夜間の緊急対応もいただいています。入居者様の日々の状態を確実に看護師に伝え、適切な医療を受けられる体勢を整えています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には速やかに医療機関への情報提供を行い、入院中は病院関係者と連絡を取りながら状況把握に努めています。退院前には必ずご家族・医療関係者とカンファレンスを行い、病状の確認をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居相談時や契約時に、重度化やターミナルケアについての説明を行なっています。ターミナルケアについて内部研修を行い、医療と連携し十分な体勢を整えています。	今年の3月に初めて利用者の看取りを行い、家族もできる限り利用者と共に過ごし、職員も寄り添うことができ貴重な経験となった。職員が不安無く対応できるよう、1ヶ月に1回ターミナルケアの勉強会をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変・事故・感染症などの発生時の対応についてマニュアル化し、職員間で話し合い、徹底しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署立会いのもと火災時の避難訓練を行なっています。災害時には地域の方々の避難場所としても利用していただけるよう呼びかけています。	備蓄の水、食糧は3日分ある。津波の心配は無いが、崖が近くに有るので緊急時の避難の対策を町と話し合っている。夜間想定火災時の避難訓練を利用者も参加して行い、非常時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様ひとりひとりの今までの生活歴を把握し、人生の先輩として尊厳を持って対応させていただいています。特に言葉使いには気をつけています。	利用者の気持ちを考えて、一人ひとりを尊重できるように職員間で常に話し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様の思いや希望を表しやすい環境を作り、無理せず、自己決定されたことに対して共感し、支援させていただいています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせ、入居者様が自由に過ごしていただけるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日常着と寝間着のメリハリをつけ、自分で好みの服を選んでいただけるよう配慮しています。2ヶ月に1回の訪問カットでは、女性には美容師、男性には理容師が希望に沿ったヘアスタイルにカットしてくれます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は全て入居者様と職員の手作りです。野菜を切ったり、味見・盛り付け・後片付けなど、職員と一緒にこなしています。お誕生日の方には「リクエストメニュー」として食べたいものをお聞きし、献立に取り入れています。外食の際は、どこに行きたいか入居者様の意見をお聞きます。	本部が決めた献立を基に、利用者の希望も取り入れて臨機応変に変化させている。買い物、米とぎ、野菜の皮むき、トレイ拭き等できる範囲で利用者も加わり、皆で楽しめる餃子作りなども行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を細かく記録しチェックしています。入居者様の好みを把握し、摂取量が少ない時は代替のもので対応したり、体調に合わせて食事形態を変更したり、臨機応変に対応できるようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後必ず歯磨き・義歯洗浄・うがいをし、職員はチェックしています。自分で出来る方には声かけ・見守りをし、困難な方には職員が付き添い口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にてチェックしながら、適宜トイレ誘導をおこなっています。入居してから失敗がなくなり、紙パンツから布パンツになった方もおられます。トイレの場所がわかりやすいように工夫しています。	各ユニットに3か所のトイレがあり、利用者ができるだけトイレで排泄できるよう職員が声掛け誘導している。部屋にポータブルトイレを置いて夜間や間に合わない時に使用している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食にヨーグルトや果物を提供、屋外への散歩やラジオ体操など適度な運動を行っています。排便に関しては訪問看護師にもアドバイスをいただき、時にはお薬などで調整させていただくこともあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	日曜日以外のご本人の希望に応じて毎日入浴していただく事ができます。入浴時間は午後4時からです。入浴剤を使ったり、「浴槽につかる」ことの楽しみを大切に、一般浴槽に誰もが安全に入っていただけるように工夫しています。	職員は着変えを選ぶところから寄りそって一緒に行き、多くの利用者がほぼ毎日入浴している。入浴嫌いの利用者には無理強いしないで、言葉かけを工夫しながら、入浴を楽しんでもらえるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の臥床時間や静養など、入居者様の希望通りにさせていただいています。夜間はゆっくりと眠ることができるよう、静かな環境作りに努めています。就寝・起床の時間は決めておらず、入居者様のペースに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人毎にお薬の明細をファイルしています。また「服薬一覧表」として1枚の紙にまとめ、入居者様がなぜ・どのような薬を服用しているのか、わかりやすいようにしています。服薬時には最低3回の確認を行い、誤薬等がないようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	絵画の好きな方は静かな環境で描いていただく、外出したい方は一緒に買い物に行く、皆でひとつのものを作り上げるなど、ひとりひとりに合った楽しみややりがいを考えながら支援させていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と一緒にスーパーに買い物に出かけたり、戸外を散歩したり、毎日必ず外へ出かけられるように工夫しています。外食や花見・遠足・地域の行事への参加など、計画を立てて取り組んでいます。	日常的に散歩が行われており、近くの新庄公園によく出かけている。利用者が外出を楽しめるよう、皆で外出できる行事を企画して出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には現金は事務所でお預かりしていますが、ご本人が希望された時はお預かりしている中から好きな食べ物や衣類など自分で買い物ができるように支援させていただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望の方には気軽に事務所の電話を使っただけできるよう、常に開放しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングやローカに手作りの作品や写真を展示したり、花を飾るなどして季節を感じていただけるよう工夫しています。 南向きの明るいリビングはとても過ごしやすい空間で、みんな集いの場となっています。	全体にすっきりと清潔に整えられている。建物の玄関には皆で作ったアジサイの花の作品が飾られているが、利用者が常時過ごしているユニット内は居室の廊下壁面やリビングに装飾や日用品などがほとんどみられず、生活感があまり感じられない。	建物の中を有効に活用し、ユニット内以外にも、職員の見守りの中で過ごせる範囲が広がることを期待する。更に居心地が良い居場所になるように、リビングに、本や雑貨小物など、利用者が楽しめる物の配置が望まれる。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ・テレビを設置し、自由に過ごしていただけるようにしています。 対面式キッチンには必ず職員がおり、安全面にも配慮し、常に見守りが行われています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に出来るだけ使い慣れた家具などを持ち込んでいただくようお願いしています。 大きなタンス、読書用の机などを持って来られている方もおられます。	入居の際に新しい衣装ケースを持ち込み、よく似た印象の部屋が多いが、写真やぬいぐるみ、趣味のものを置いてその人らしく過ごせるよう工夫している。私物の家具などを持ち込んだ個性的な部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に、できるだけ自立した生活をしていただけるように、全館バリアフリーで手すりを設置して、見守りのしやすい配置になっています。		